第１１期中野区健康福祉審議会　地域福祉部会（第２回）

開 催 日　　令和８年５月２５日（月）午後７時～午後９時

開催場所　　中野区役所（７階）７０１～７０２会議室

出 席 者　　＜地域福祉部会委員＞
渡辺 裕一、北川 進、小田 史子、小野 武、白岩 裕子、那須 京子、
布施 律子、松山 聡、宮澤 百合子、相場 久恵、丸山 貴士
＜事務局＞
健康福祉部 福祉推進課長　細野 修一
地域支えあい推進部 地域包括ケア推進課長　池内 明日香
地域支えあい推進部 南部すこやか福祉センター担当課長　菅野 多身子
地域支えあい推進部 鷺宮すこやか福祉センター担当課長　高橋 かほる

【議　事】
○渡辺部会長
定刻を過ぎましたので、第２回地域福祉部会を始めさせていただきます。
では、議事に入る前に出席委員や配付資料について、事務局からご確認をお願いいたします。

○細野福祉推進課長
まず会議の成立について事務局よりご説明をさせていただきます。本日は委員１１名の方のうち、半数以上の出席により部会が成立していることをご報告申し上げます。
本日この部会の傍聴を希望されている方は、いらっしゃいませんでした。
では、資料の確認をさせていただきます。事前送付資料は、第２回次第と資料一覧、資料１－１、１－２、２－１、２－２の５点です。
そして、大変恐縮ですが、資料２－２について修正がございましたので、差替えさせていただきます。大変申し訳ございません。よろしくお願いいたします。
また、本日追加資料は、当日資料１、当日資料２、当日資料３、あと番号はつけてございませんが、「地域共生社会について」のスライドを印刷した資料、以上４点です。
以上、本日の資料となりますが、足りない方がいらっしゃいましたら、挙手願います。よろしいでしょうか。

○渡辺部会長
では議事に入ります。議題（１）「令和７年度『健康福祉に関する意識調査』の実施結果について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

○細野福祉推進課長
では、『健康福祉に関する意識調査』の実施結果について」、資料１－１と１－２に沿ってご説明いたします。
資料１－１、令和７年度健康福祉に関する意識調査を行いました。
１番、健康福祉施策に係る区民等の実態とニーズを把握し、今後の事業の見直し・改善、目標の達成度を測る指標として活用するとともに、中野区地域福祉計画等の検討に資することを目的として実施しました。
調査は３，０００人を無作為で選び、１，０９０人の方から回答をいただきました。

５番の「調査結果」ですが、この調査は３年ごとに実施しておりますが、前回と比較して変化が大きかった項目を書いています。本部会に大きく影響するところとしては、（１）から（３）で、（１）参加している地域活動について伺ったところ、変動が大きかったのが５０歳代で、「参加している」と答えた方が９．５ポイント減少しました。

また、（２）近所との付き合いの程度については、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」と答えた方が、８０歳代以上で１０．７ポイント増加、「つきあいがほとんどない」が３０代で３９．４％と９．３ポイント増加している一方で、４０歳代で９．６ポイント減少していました。

（３）近隣同士の日常的な声かけなどの見守り・支えあい活動の実施状況については、「継続的に活動している」が全体で１３．２％と７．７ポイント増加していました。

資料１－２健康福祉に関する意識調査報告書」の冊子をおめくりください。目次を見ていただくと、調査の概要、調査対象者の属性、分析となっていますが、中身は「調査結果の分析」で。Ⅲ「調査結果の分析」のうち、１「地域活動について」というところが本部会に最も影響するので、２１ページから４６ページを簡単にご説明させていただきます。

２１ページから１「地域活動について」とあって、１．１「地域の活動への参加」の下に太字で「参加している地域活動の中で、最も高いのは『町会・自治会の活動』」と書いてございます。グラフがあり、その下にさらにコメントとして、「地域活動への参加状況は、『参加していない』が最も高くなっている」という感じで、この項目ずつの見方なのですけれども、事務局がここで一番表現しているものは、この四角の囲みの上の太字のところを見出しとしてご覧いただいて、そのさらに説明がこの四角の下にあるという感じで、これから１３個お話をしますが、そのように読み取っていただければ、概要をつかんでいただけるかなと考えています。

さらに詳細はというところのグラフが、その項目ごとに続いている。そんな読み取り方をしていただければと存じます。

では、２３ページ、１．２「近所とのつきあいの程度」は、「親しくおつきあいしている割合は８０歳代以上で２割半ば」ですが、ご近所とのつきあいの程度としては、「顔を合わせたときに会釈する程度」が４２．２％と一番高くなっていました。その横にこれまでの経年の結果などを載せています。

２７ページ、１．３「人とのつきあいがないと感じるか」では、「人とのつきあいがないと＜感じる＞は３割台後半」でした。この３割台後半ということは「感じない」が６割台ということになります。

２８ページ、１．４「取り残されていると感じるか」では、「取り残されていると＜感じる＞は１割台後半」でした。

１．５「他の人から孤立していると感じるか」では、「他の人から孤立していると＜感じる＞は１割台後半」でした。

次に１．６「相談相手」では、「相談相手については『知人・友人』が５割半ば」でした。

３２ページ、１．７「家族や友人以外の相談先」では、「家族や友人以外の相談先は『そのような人はいない』が６割台前半」、そして、四角囲みの下２行目、「次いで、『区役所等の公的機関』（１５．５％）」でした。

３４ページ、１．８「必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動」では、「必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動は『日常的な声かけ』が４割台後半」でした。それ以外では、「異変を感じた時の区役所等への連絡」、「生活の様子の気配り」と続いています。

３６ページ、「近隣同士の日常的な見守り・支えあい活動の実施状況」では、「近隣同

士の日常的な見守り・支えあい活動を『これからしてみたい』人が３割半ば」でした。実際、現状では「活動していないし、これからも活動したいと思わない」が７割ですが、その一方で、「活動はしていないが、これから活動してみたい」という方が、３４．４％いらっしゃいました。

３８ページ、１．１０「地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況」では、「子どもに対する見守り・支えあい活動を『特に何もしていない』が約７割」でした。

３９ページ、１．１１「地域における住民同士の交流の場や機会の有無」では、「住民同士の交流の場や機会が＜ない＞が６割台前半」でした。

以上が、意識調査を取りまとめた結果です。

○渡辺部会長

議題（２）の説明も、続けてお願いします。

○細野福祉推進課長

議題（２）について、ご説明させていただきます。

資料２－１「令和７年度『中野区地域福祉計画』の進捗状況について」、中野区地域福祉計画の位置づけた主な取組の進捗状況と実績について報告いたします。

２（３）自己評価ですが、施策は８つ、施策の主な取組は、取組数に記載のとおりですが、取組毎に（２）の評価基準により区で評価を行い、全ての取り組みについて、「予定どおり実施」しました。ただ実感として、全てがパーフェクトだったのかと言うと、そうではないと自覚しておりまして、今回より、（４）成果指標の進捗状況について。施策の成果指標について、計画策定時、現状値、目標値、進捗区分。

これをどのように読み取るのかというと、例えば、施策１の「国籍や文化、年齢、障害、性別などが異なる多様な人々が暮らす中で、人権や価値観が尊重されていると思う区民の割合」は、この計画をつくったときは４８．２％であったものが、令和７年度の実績値は計画策定時より下回っている。ただ目標値は引き続き６６％で置いていますので、この計画策定時から現状値が低下しているため△となっています。この△は、現状値が計画策定時または前年度数値より低下している場合に付けており、今回７つの指標が△となり、事業の実施はしたものの成果として掲げたものについて十分であったか、引き続き課題があると認識しています。

資料２－２は、各施策の取組状況の詳細です。

資料の見方ですが、まず目次があって、施策主な取組が並んでいます。1ページ、「計画進捗管理シート」とあり、内容は、「計画名」、「施策名」、その施策ごとに計画に掲げている「目指すべき状態」、さきほど一覧でご覧いただいた「成果指標」があり、その下に主な取組の「取組内容」、「所管」、「令和７年度の取組状況と自己評価」を記載しています。「令和７年度の取組状況と自己評価」については、自己評価が○でも、何をしたか、できるだけ具体的に記載しております。事業実績は、参加した人や、アンケートが取れている場合は、その主な意見を記載するなど、より実態を示せるように工夫をしました。

そして、「今後の課題」には、事業は行ったけれども、引き続きどのような課題があるか記載していますので、お読み取りください。資料の見方は以上ですが、内容説明に入ります。

施策１では、その「目指すべき状態」に対しての「成果指標」は、二つあるうちの一つは足りていない状況でございますが、事業としては啓発事業や研修、相談環境の充実などに取り組みました。また、虐待対応等について職員の対応力を高めるための研修等や、または専門職の方々との協力した体制をとりました。

７ページ、施策２「暮らしやすい生活環境の整備」の「成果指標」の２、「区内移動の

快適性に関する満足度」が計画策定時より下がりました。区の主な取組としては、ユニバーサルデザインの普及啓発の施策の改善や、バリアフリー、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組みました

１０ページ、施策３「健康的な生活習慣の定着」では、ご自身の健康の状態や食生活などに気をつけている人の割合を「成果指標」としています。スポーツ、食育、介護予防に関する取り組みについて記載しています。

本部会に関連する施策は、主に４、５、６、７が関連します。

１４ページ、施策４「交流の場や機会の充実」の「主な取組」は、「身近な地域の人と知り合うきっかけづくり」、「高齢者の居場所や活動の場づくりの推進」、「認知症地域拠点の推進」、「障害者との交流機会の充実」、「中高生年代向けの施設の整備」、「学童クラブ整備・運営」などで、居場所づくりや活動の場づくりに取り組んだところです。

１７ページ、施策５「地域における支えあい活動の推進」、主な取組の「地域活動の推進」では「ためまっぷなかの」を活用した活動、「見守り・支えあいの推進」では世代を問わず誰もが参加できるイベントの実施や、町会・自治会へのアンケート等を行いながら、この連携強化に努めてきたところです。また、高齢者の見守りに関する協定を締結にも取り組んでまいりました。「新たな担い手の育成・支援」、「関係機関との連携」については、ここに掲げた事業を実施いたしました。

２０ページ、施策６「多様な課題を抱えた人への支援」では、「生活困窮者に対する包括的な自立支援の促進」や「生活困窮家庭への支援」等に取り組んでまいりました。

２３ページからは、「包括的な相談支援体制の充実」ということで、「地域包括ケア体制の構築の推進」や「活動を推進するための地域拠点の整備」等に取り組みました。また、ヤングケアラーや住宅確保要配慮者に対する相談支援体制の推進等にも取り組んできたところです。

最後に、施策８「適切な福祉サービス・医療を受けられる環境整備」ついては、「第三者評価受審の推進」や「人材の確保、育成」、「介護サービス基盤の整備」等に取り組んだところです。

以上が令和７年度の取組状況です。

議題１と２について、一緒に説明をさせていただきましたが、事実として調べたことと実施したことを書かせていただいた今後足りないところももちろんありますし、この後、課題を皆さんで洗い出していただけたら幸いです。それを踏まえて今後、区として有効な施策につなげられるような計画づくりにしたいと考えております。

一旦ご説明は以上です。

○渡辺部会長

ありがとうございました。簡潔にご説明をいただきましたが、後ほど皆さんから質問などお伺いしたいと思います。

ちゃんとこうやって見ていただくこと、報告をしていただくことが本当に大事だなと思います。取り組んでいて、やったのだから○なのですよね。ただ、本当にそれが目標というところで達成したのかどうか、目指す社会をつくることに本当につながったのかどうかというところも、真摯に向き合いながらこの資料をつくってくださっていると思いますがどうしても実施したかどうかに目が向いてしまいます。やはり私たちはこれからの計画を立てていくというところで、目指す社会はできてきているのかどうかというところが大事だと思います。調査結果でも、まだこんなに地域のことにあまり関心がない人がいるのかと思われたか、２０何％も地域活動に関心があり、活動に参加している人がいると見たか、数字の見方が難しいなと思います。人口もすごく多いですので、２５％の人は関心があるというと、結構な数の人が参加している地域活動があるも見えま

す。これを少しでも、何％かでも増やしていく努力をしていくと、地域活動に参加してくれる人の数はかなり増えてくるというイメージも持てるので、単にこれが多い、少ないということではなくて、これから本当に目指す社会というのを考えたときに、では何％ぐらいの人が本当にそのように活動に参加してくれるというところを目指していくのかとか、そんなことも具体的に考えていく必要があるのかなと思いました。

実施することというのは、どうしても目標になりがちですので、そういうことも受け止めながら考えていかなければいけないなと思います。それから、計画もつくることが目標になってしまって、つくったら疲れて、もう終わったみたいなことが起きやすいです。計画は出来上がったことは明確なので、「出来上がって、いい冊子になりました。皆さんお疲れさまでした」になってしまうのですが、計画をつくったらそれを推進していくということが大事ですので、私たちも目標地点というところでは、本当にその社会につながっていく計画ができたかどうかを確認するのが大事かと思います。

繰り返しになりますが、目標としてこういうことをやっていこうという施策はやっているが、もしそれが目標に向かっていないのであれば、もう一回きちんと計画を立てて、何をしていくかということを具体的に皆さんで話し合って、そして、また次の計画を推進していき評価していく、この繰り返しの中の一部に私たちはいます。この結果を踏まえながら、この後、皆さんで具体的にどういったことをやっていけばいいのか、やったことが効果的ではなかったのかどうかとか、効果的だったはずだけれども、もしかしたら結果につながっていない何かがあるのではないかとか、これはもう大きくやり方を変えていく必要があるものなのではないかとか、たくさん意見を出し合っていくことが非常に重要かなと思いましたので、意味のある計画づくりを皆さんでやっていけたらと、改めて思ったところです。

北川先生、お願いします。

○北川副部会長

ありがとうございます。今の渡辺先生のお話を聞いて、数字に惑わされると言ったらよろしくない表現ですけれども、数字で判断しがちだよなと、私も思いました。

そんな中、ふと思い出したのが、先週久しぶりに仙台に帰ったのですが、いよいよ私の住んでいる町内会にある子ども会が消滅したという話を妻から聞きました。我が家も子どもがいて、私もＰＴＡ会長をやっていたりもして、子ども会にはとてもお世話になってきたので、すごく残念な気持ちになりました。

何で今のお話から思い出したかというと、ＰＴＡ活動や子ども会活動が今、どんどんなくなっていっています。子ども会活動は、例えば学校側からすると、なくなることによって地域防災訓練のときに、集団で避難場所まで行くのに、子ども会がベースになって連れて行きました。また、いろいろなイベントやお祭りで、町内会の子ども会単位でいろいろやってもらうことがたくさんありました。これまでも子ども会はもう要らないのではないか、辞めたい、会員数も減っている、負担が大きい、なくしたいみたいな話になるたびに、「いや、これがなくなったら皆さんが困るのですから」みたいな話がありました。

でも、今の数字の話から、なくなったら本当に困ることは何だろう、集合がうまくいかなくなるから困るではないのではないかと思い出したのです。要は、子ども会にしてもＰＴＡにしても、大事なことは、子どもが成長していく間に、大人やいろいろな人たちとのコミュニケーション、関わりの機会を提供しているのです。それを断つことになる。

ですので、数字上はなくなったら困るという話の裏には、本当はそこにちゃんと目的があって、そこを部会の中では、この目的は、本当は何だったのだろうねということを

確認しながら進んでいくことなのだろうと思います。
　もう一点だけコメントさせてください。皆さんも「えっ」と思ったかもしれませんが、例えば地域活動への参加状況は「参加していない」が７５．２％。「７５．２％も参加していないのか」と言っていながら、後半のほうで、付き合いがほとんどない人たちが全体で２割ほどいて、特に２０歳代以下では４４．５％、つまり、若い人ほど近所の付き合いが少ないというデータが出ているのですね。
　ところが、「自分が孤立しているか」、「ほかの人から孤立していると感じているか」という問いに対しては、「感じていない」という人が多いと出たのです。要は、つながりは地域で薄いと言っているけれども、自分は別に孤立はしていないと、孤独感は感じていないと言っている人がいます。「地域のつながりが希薄だと、孤立とか孤独につながるよね」と地域福祉の世界では、すぐに言いがちですが、にもかかわらず、このデータから言うと、孤立、孤独感はあまり感じていないのかと読み解けます。
　ということは、私たちが今まで思っている地域のつながりではないつながりも、もしかしたらたくさんあるから、このようなデータも出ているのかもしれないです。
　今、地域のつながりと言ったらば、私も含めて皆さんも思い浮かべるのは、子ども会のようなつながりであったりとか、地域のＰＴＡだったり、町内会であったりとかイメージしがちですが、つながりは、会社のつながりもあれば、仕事のつながり、趣味のつながり、インターネット上で遠くの知らない人とのつながりなど、いろいろなつながりがあるはずです。何も住んでいる地域だけのつながりではないつながりというのも、今やＩＴが進んで、どんどん広がっています。何が言いたいかというと、ついつい固定概念で「つながりは」、「あの地域の」みたいに思いがちなのですが、それだけではないつながりということも、これからの社会に向けてもっと具体的に私たちは見ていかなければいけないのだろうなということを、今回のデータから思いました。渡辺先生が冒頭でおっしゃっていた、いろいろな視点、いろいろな幅広い角度から議論していくことが大事なのだろうなと思った次第です。

○渡辺部会長
　ありがとうございます。子ども会とか子どもクラブとか、地域によって呼び方は違うと思いますが、実感して数字にどのぐらい現れるかわからないと思います。調査としては団体数が１減ったとただ見えるだけかもしれないです。だけど、地域の人のつながりとして実感は、結構出かける機会が減ったなとか、子どもたちが集まって楽しそうにしている姿を見なくなったなとか、もっと減っているように感じるかもしれないです。
　これも単純に一個なくなったと考えていいのかどうか、逆行しているわけですよね。今。コロナの頃は逆を言っていましたが、今は、つながりつくろうよとか言っています。「集まりをつくろうよ。孤立しないようにしようよ」と私たち今日話し合っていくわけですが、こういう会がなくならないようにしようとなるのか、それとも、こういう会がなくなったというのは、担い手の方の問題で、その担い手を育ててくることをやらなかったからなのか、忙し過ぎてできないのか、こういうことが続いていくための支援とか関わりみたいなものがもっと必要だったのになかったからなのか、もっと言うと、仕組みとしてもう古くなったので、新しいつながりやグループや組織をつくっていこうという意味合いなのか、ここら辺もいろいろな考え方があると思うので、皆さんが自由にお話し合いをしていただきながら、地域で失われている機能を取り戻していくのか、新しくしていくのか、また生み出していく形が違うのか、そんなところも前向きに議論していけたら思います。
　皆さん今確認したいこと、事実関係も中心にしながらご質問をいただければと思いますがいかがでしょうか。

○丸山委員
　区民応募の丸山です。私は普段の仕事柄、こういったアンケートを取り扱っていまして、中野区のはやっていないのですが、封筒がいっぱい届いて開封して、データ入力して、集計して、グラフとかをつくったりしています。今回、中野区の資料を見て思ったことは、実施したことと、今後の課題は出ているのですが、データからこういうことが読み取れる、もしかしたらこうなのではないかといった分析が資料からは見えづらいのかなと思ったのが一点です。
　分析が載っていると、なるほど、アンケート結果から見えてきた数字はこういうことなのか、それを分析して今後の課題となってくるのかと思うのです。分析があると、資料として見やすく、わかりやすく、理解しやすくなっていくのではないのか思いました。

○細野福祉推進課長
　ご意見ありがとうございます。今回のこちらの資料における取組状況と課題という関係では、確かにもう少し要因の分析なりというのは、丁寧にやるところもあるかと思います。こちらは割と淡白に見えるかもしれませんが、この段階では意識調査も取組状況も、区としては、あまり深く評価は現時点ではしないお出ししました。行政寄りの分析になってしまう可能性もあるので、まっさらな状態で一旦お示しした上で、今後、計画をつくっていく段階では、これらの意識調査や実施状況をこのように踏まえ次の計画にしますとさせていただくので、今日いただいたご意見も踏まえて、今後は要因分析をよりしっかりして、次の計画にしていきたいと考えております。ありがとうございます。

○渡辺部会長
　ありがとうございます。いろいろな分析の方向性はありますけれども、皆さんの目から見たこの数字の意味というのがやっぱり大事だと思うのです。
　２５％ぐらいの人が参加しているとすると、例えば地域に関わっていらっしゃる皆さんの実感として、「こんなにたくさん地域活動していたの？」と思うのか、「もっと５割ぐらいの人が参加していると思っていたけれども、あれ意外だな」と思うのか、そのような目で見たときの数字の見方と、行政の目で見たときの見方は、やはり違ってくると思うのです。
　ある意味では、行政の見方を押しつけることなく、こういった場所で使わせていただいて、しっかり分析を皆さんでしながら、一緒にこの意味を考えていきたいと思います。一面的に見ずにいろいろな見方で見ていきましょうということで、分析も本当に大事だと思いますので、ぜひ力を発揮していただきながらご一緒させていただければと思います。

○渡辺部会長
　ほかにはいかがでしょうか。

○白岩委員
　質問です。この地域福祉部会は、区民の方がどう感じているかの割合を見るのですか。
　例えば成果指標でも区民の割合というのがいっぱい出ていますが、施策７の「アウトリーチチームが対応して適切に支援につなげた割合」というのは、区民の感覚ではないと思います。それがどこから出て来るのかわからなかったです。また、全部○というのは、やったかやらないかで見るとやったのだから、区役所の仕事として○がつくのはわかりますが欲しいのは、やってみてどうなのか、足りないことはどこなのかということです。

私は介護の立場なので、「適切な福祉サービス・医療を受けられる環境整備」で言うと、ヘルパーさんの人手不足でとか、ケアマネジャーさんが減って、明らかに困ってきている状況が、使った人の感想だと見えない部分は、介護・高齢部会で見るということであれば、単なる感覚、感想、体感みたいなところを、福祉部会がまとめるのですか。

○細野福祉推進課長
今おっしゃった、例えば数字の捉え方ですが、施策７のアウトリーチチームで言うと、この「目指すべき状態」は「支援が必要な人に対し、切れ目のない包括的な支援が行われています」なのですが、例えばそれが場づくりをこれだけやりました。１００です、２００ですというのが成果指標になる場合もあります。ただこの場合は、それを区民の方のより実感的なところで、意識調査で答えた人がこれだけいると、より成果があったと見ていこうという考え方なのです。
ですので、この「各施策の取組状況について」の資料については、区として事業は自己評価でやりました、やりませんでしたという評価をしている部分と、成果指標に掲げたものに対して、現状どこまでできたか、まだまだ足りなかったのかというのを、完全に客観性とは言い切れませんが、あまり主観的にはならないように書かせていただいたということです。もちろんこの分析だけしかやり方がないわけでもなく、これが完全というわけでもないのですが、こちらの資料をお使いいただいて、今後の議論の材料にしていただければと考えています。

○渡辺部会長
この部会では何をやっていくかということも含んだご質問でした。やはりこの指標というのが、令和４年度に計画策定されて、令和１０年度に向けての目標を達成しようとしているわけです。今、令和７年度では、残念ながらまだそこに近づいていないものもあるというのが、この数字上は見えてきます。特に令和４年度頃は、目標を全部数字で立てなさいということがすごく渦巻いていた時代で、この数年は、質的に評価していきませんかという声が上がってきています。評価の在り方も時代、時期によって少しずつ変わってきているところもあるので、実際には数字だけではない、数字では見えないところに皆さん目を向けていきましょうということももちろんあります。それをしっかりやりながら、どのようにしていけば、この施策の成果指標を達成していけるのかを皆さんで考え、意見を出していくことがこの部会の役割だと思います。
例えばユニバーサルデザインをより多くの人に知ってもらうにはどうすればいいのか。すでに７５．８％の人は知っていて目標を達成しているわけですが、これはいい感じなのかとか、区民の皆さんにどうやってこのインパクト、変化とか、影響を与えていくことができるのかということを、皆さんの目線でしっかり意見を言っていただくというところが期待されていると思います。
ですので、それぞれの施策の中で目指していることも一回見ていただき、私たちは区レベルでのことを考えていこうということですので、区としてどういうアクションをしていくとこれが達成できるのかを視点に、考えていく必要があります。単純に「では、お金を出しましょう」という話でではなく、具体的なアイデアがすごく大事だと思いますので、皆さん忌憚のないご意見を出し合っていこうということです。
お金のことも、必要だということであれば、意見としても大事だと思いますが、何でもそういう解決ではなくて、やはり仕組みをどうしていったほうがいいのかとか。今この仕組みでやっているけれども、これではまだまだ数を増やしていくことはできないのではないか、だからこういう仕組みにもっとしていく必要があるのではないかとか、そういうこともご意見をいただければいいのかなと思います。

私たちが完全に決めるというような場ではなくて、これを最終的に事務局にまとめていただくこともあります。言いっ放しになってしまうところもあるかもしれませんが、どんどんいろいろなことを言っていただいて、まとめていただいたものを確認していく。これの繰り返しを一緒にやっていきたいなと思っております。
よろしいでしょうか。

○白岩委員
よくわからないこともありましたが、大丈夫です。

○渡辺部会長
今の説明はいかがでしたか。

○白岩委員
いや、わかりますけれども、わからない部分はあります。

○渡辺部会長
その「わからない」は、話し合いの意見の中に入れてください。

○白岩委員
この大枠ですもんね。だから、意識を上げていく。

○渡辺部会長
そうですね。意識を上げていくというのは一つの大事な目標だと思います。でも、おっしゃるとおり、一人ひとりの意識を上げていくことも、とても大事です。その一人ひとりの意識を上げていくにはどうすればいいのでしょうか。

○白岩委員
ということですね。わかりました。
仕事で関わっているので、どうしても、細かく見てしまいたくなりがちなのですけれども、そうではなくてね。

○渡辺部会長
まずは、そうです。

○白岩委員
わかりました。

○渡辺部会長
実際にはこの成果指標も、私たちの生活レベルでもっと細かくいろいろなことをやっているのだと思います。でも、１００とか並んでくると、何もわからなくなってしまいます。なので、今このぐらいに指標でまとめて、そこを目指してやっていきましょうということかと思います。
ほかにはいかがでしょうか。わからないところも言っていただいたほうが本当にいいと思います。

○白岩委員

前も聞いたけれども、わからないです。

○渡辺部会長
ずっとわからないということもあるということで、大丈夫です。そうやって聞いていただいたほうがいいです。

○宮澤委員
例えばこの施策１の「虐待の通報・届出に対応できた割合」で目標値１００％、現状値１００％、１００％と来ていますが、これはあくまでも通報があったからということでこうなっているということですよね。そもそものところ、これ「見逃していないの？」という話ではないですか。

○渡辺部会長
ずっと１００％ということは、それを指標として使い続けることに意味があるかどうかということですね。これは１００％でなければいけないのです、９５％だったら、５％どうしたということになると思うのですよね。

○宮澤委員
でも、虐待が１００ぐらいあるのにもかかわらず、通報あったのが３０ぐらいかもしれないではないですか。その辺をどのように虐待自体がないようにするかということが大事なのかなとも思います。
この虐待って、すごくいろいろなところに関わるではないですか。家族内でもあるだろうし、施設内とかでもあるだろうし、この辺は違う部会でやっているでしょうか。
それがわからないというのもすごくあります。

○渡辺部会長
その範囲は、ここでは非常に広いと思います。今日のテーマも「地域共生社会の実現に向けた区の取組」なので、「誰が」というよりも「誰もが」という話を部会ではしていかなければいけないです。今おっしゃったように、子どものこともそうですし、子育て中の方のこともそうです。
ここで大事なのは、誰かを責めない、みんなが安心して暮らしていく、ということだと思います。例えば虐待をしてしまった。お母さんとかお父さん、その保護者の方を責めて終わるということではないのです。その人たちも安心して、そういったことがないように、地域の中で一緒に暮らしていけるにはどうすればということなので、かなり広い視点で物を考えていかなければならないと思います。
後で少しお話をさせていただきますけれども、そういった視点が非常に重要だなと思いますし、目に見えているものは氷山の一角で、水面の上に出ているところだけです。この下の見えないところに焦点を当てていくというのは非常に難しいことです。おっしゃることは本当にそのとおりですが、では本当に何件あるのかが、全く見えないから、通報ができる限りスムーズにされるような場づくりをして、それがどういう指標によって評価できるのかがまた難しいところでもあります。でも、その視点を皆さんも本当に持っていただいて、この数字が何を意味していて、本当は何を見ていかなければいけないのかという視点をぜひお持ちいただきながら議論していただければと思います。
皆さんよろしいですか。では、次に進めさせていただきたいと思います。

○渡辺部会長

グループディスカッションに入る前に、私のほうで「地域共生社会について」のスライドを準備しました。地域共生社会をテーマに部会で考えていくので、地域共生社会は何なのかということを皆さんに共有した上で、ディスカッションをしていきたいなと思います。

まず４ページ、地域共生社会は、誰もがその人らしく暮らし続けられる地域社会だということで、共有していきたいなと思います。この「誰もが」というのが大事だと思うのです。だから誰かが幸せに生きられなくていいということではないのです。

アンケートだと見えづらいのですけれども、例えばこういう中野の地域でも、１人だけ買い物がすごく苦しい、大変だという人がいたとします。アンケートでは多分取り上げられないと思います。何百人も何千人も大変だと書いているところは目がいくのですけれども、１人だけこういうことで困っているという人には目がいかない。でも、その人が困っていると言っているからには、何とかそのことが解決するように考えていかなければいけないわけです。

でも、区の施策としてだけやっていこうとすると、１人のために何か大きな仕組みづくりをしようというのはなかなか難しい。では、どうしたらその１人の人の困り感に向き合っていくことができるのか、どんなことを考えていけばいいのかということをやっていかなければいけないのだと思います。ですので、そういったことを見過ごすのではなくて、そこにきちんと光を当てながら考えていって、「誰もが」ということを実現していく必要があります。

次のスライドを見ていただくと、どこかで誰かが「自分らしく暮らすのは難しい」と言っていて、これはゼロになるかというとなかなか難しいのが現実だと思うのです。だけど、常にこの声に向き合い続けることが大事だと思いますので、先ほど言った「見過ごさない」ということが大事です。

次のスライドには、もうみんな生きづらさを感じている。私も感じています。皆さんは感じますか。

私、学生に「先生は悩みなさそうだね」とよく言われるのですが、結構悩んだりします。誰かがどこかで生きづらさとか、何か困っているということがあったりします。でも、なあなあだったり、何とかしながら生きているということがあったりするので、そういう生きづらさというものは、もう誰もが当事者なのです。その生きづらさというのが何なのかということとか、次のスライドで、生きづらさは何で生じるの？ということとか、そういうことをきちんと考えていくということで、生きづらさというものをできるだけ軽減して、生きづらさというのがなくなっていくような関わりというのを、どのようにしたらいいのだろうかということを真剣に考えていくということが必要だと思うのです。

次のスライドが生きづらさをどう捉えますかというスライドです。基本的に生きづらいというのを人のせいにする見方は結構多いと思います。「あなたが、背が低すぎるからじゃないの」とか、「あなたが女性だから生きづらいのではないの」とか、「あなたが車椅子だから生きづらいのではないの」と、結構個人のせいで生きづらさが起きていると見てしまうことが多いです。

けれども、そうではない。私たちがつくろうとしているのは、誰もがその人らしく幸せに暮らせる社会なので、社会のほうを変えていくことによって、どんな状態の人でも安心して暮らせるにはどうすればいいのだろう。だから社会をどう変えるかということを考えていくことによって、これを実現しようとしているのです。その人それぞれはあるがままに生きることが認められて、そこで安心して暮らすことができるのだと思います。

では、どうすればいいのでしょうか。例えば段差だらけの地域で、車椅子の方が暮ら

すというのは大変なことです。行きたいところに行けない、あっちに行こうと思ってもあそこに階段があって､エレベーターはない｡あっちに行こうと思っても段差があって、あそこのお家にまで行けない。そんなことの繰り返しで、自分のしたいこと、自分らしくやりたい活動が何にもできない。もう全然面白くないということです。

そうではなくて、やっぱり一つ一つのところを見ていったときに、ここの段差とあそこの段差をなくしていくということで、移動には問題がなくなるわけです。本人が歩けるようになりましたとか、もちろんそういう努力をされる方もいらっしゃいますけれども、場や社会が変わっていくということで、生きづらさという状態が変わっていくということを、どうやったら実現できるかを考えていくのが、この地域共生社会づくりなのだと思います。

これは誰もが言えることですが、自分自身が車椅子で暮らすという可能性があるわけです。病気をするかもしれませんし、けがをするかもしれません。けれども、そうなっても今までと同じ生活ができるじゃないと。もちろんできなくなることもあるとは思うのですけれども、見たいと思っていた映画も見に行けるじゃないと。仲間と出かけようと言っていたところに出かけられるじゃないと。そのようにして、そういう状態になっても､その人らしく暮らし続けるということが実現できるように考えていくと考えると、誰も人ごとになる人はいないわけです。

認知症もそうですよね。皆さんで今暮らしていらっしゃる場所で、このまま生活が続いていって、将来、認知症になったときに､「自分はこの地域で認知症になっても安心して暮らしていけるな」と思いますか。それとも､「いや、ここでもし認知症になってしまったら、誰も声かけてくれないし、ひとり暮らしになって認知症だと結構みんなが出ていけとか言っているから、私も出ていけと言われるのではないかな」とか。もう、まずいみたいな状況が生まれている可能性というのはあると思います。でも、もし地域の中でひとり暮らしをしている認知症の方がいて、結構みんなが声かけ合って､「あの人、幸せそうだな」とか、出かけたりしても、みんなが声をかけてくれているから大丈夫そうだなみたいなモデルがいると、自分も認知症になったときに安心してここで暮らせるかもと思える可能性は高まってくるわけです。もちろん認知症にはなりたくないなという気持ち、そういうのはもちろんあっておかしくないのですけれども、万が一そうなっても、この地域で暮らし続けられるなとか、この地域だったら大丈夫だなと言えるような場所を本当につくれるかどうかということが、この地域共生社会づくりの勝負になってくるのかなと思います。

ですので、この環境というものとの関係の中に人の生きづらさがあるので、例えばどこにも出かけられませんよ、行けませんよという状況を変えていくのか。また、偏見とか差別によって何かに参加できないということもあります｡「精神疾患の人は、このグループには来ないでね」みたいなことを言われると､もう行けなくなってしまうわけです。

他には、みんな車でどこかへ出かけましょうと乗り合わせて行こうと言っているけれども､精神疾患の方への差別とかが激しかったりすると､「いや、あの人は声かけないでおこう」みたいなことが本当に起きてしまいます。だから、そういうことがなくなっていくと、みんなが声かけ合ってくれて、一緒に出かけられたりする可能性も高まってくるので、偏見や差別を解消していくにはどうすればいいのかということも、大事なことです。

それから、認知症になっても、みんなで集まれる場所がたくさんあると思えれば安心ですよね。では、そういうサービスが必要ですよねとか、この環境の中にそういうサービスがあるかないかで違いが出ます。また、法律や制度がやはり必要なときもありますし、逆に法律や制度が、人が安心して暮らすのを邪魔しているときもあります。ですので、そういうものを変えていくということも考える必要があります。

人のある状態に対して生きづらい地域と生きづらくない地域があるということなのです。認知症でいて、あるＡという地域では安心して暮らせる。でも、Ｂという地域では安心して暮らせないということが起きるのです。これは中野とかではあまり感じられないかもしれないですけれども、地方の研究をして、人口減少ですごく苦しんでいる地域のことをやっていると、本当に違うのです。だから、これがもっともっと小さいエリアで皆さんが実感することになる可能性というのはこれからあるのかなと思います。

では、どっちの地域をつくるのですかということです。もうそういう認知症とかそういうのがない人たちだけで安心して暮らせる地域をつくろうというのは、本当に安心して暮らせる社会なのかというと、皆さんが安心して暮らせるという、「うちはそうだよね」と言えるような場所づくりをしていきましょうということで、人のある状態に対して生きづらい地域と、生きづらくない地域があるということは、私たちは、生きづらくない地域をちゃんとつくっていきましょうよということを、具体的に考えていくということです。

社会というのは、もう残念ながら大多数の人に合わせてつくられています。視覚で言えば、見えている方が安心して暮らせるようにいろいろなサインがあったり、でも見えない、見えづらい方にとってはすごく情報が少ない状況になっていたり、車椅子の方は少ないですから、段差があっても移動できる方が安心して移動できるようになっていることがすごく多いのですけれども、誰かの普通を基準にデザインされている社会をやっぱり変えていくということです。

一人ひとり違いがあって、本当にいろいろな人がいます。でも、そういう状況とかによって、生きづらさというのがあるということに私たちは目を向けていきましょう。地域で講演をしていると、移動手段が乗り合いのタクシーみたいな地方があります。インターネットが使えない人が結構多くいる中で、インターネットじゃないと申し込めないみたいな切実な課題があって、もう移動もできないじゃないみたいなことになったりして、人ごとではないという感じです。

もし自分がたまに「普通でよかった」みたいな瞬間が、例えばこれ普通と言いづらいですけれども、見えていてよかったとか、車椅子ではなくて歩けていてよかったとか、そういうふうに普通というのは大多数の人の側に自分がいてよかったみたいに思う瞬間というのがあるのですけれども、そのときは確実にその裏に生きづらさを感じている人がいるということだと思います。なので、こういったことにきちんと向き合いながら、誰もがということを、本当に考えていくということが大事なのではないかなと思います。

次のスライドで、自分は、自分らしく暮らせているという人の中にも、いつかどこかでその生きづらさを抱えるということは、誰にでも起きることですので、そういったところに目を向けていきませんかということです。

最後に、この生きづらさをデータでも見せていただいているのですが、やはり単に誰かのせいにするとか、自分には関係ないと言っていると、誰もがという地域はつくれない。やはりこういうことに関心を持ってくれる人を増やすというのは、幾つかの指標にあったと思うのですが、とても大事なことだと思います。でも１００％は無理ですよね。諦めていいのですかね。そこが矛盾するのですけれども、だけど生きづらさを単に誰かのせいにし続けるのではなくて、誰かが悩み、苦しい状況にあるのだったら、それをみんなで一緒に考えられるような社会にしていきませんかということだと思います。

一人ひとりで変えていくというのは難しいです。大きな権力を持っていると、可能性としてあると感じるかもしれませんが、気づいた人が１人というとき、悩んでいる人が１人というときに、社会を変えるというのはすごく難しいです。でも、それをやはり一人ひとりではなくて、みんながそこにつながっていって、自分のこと以外にも関心を持てるようになっていくと、その力を少しずつ出し合って変えていくことができると思う

ので、もしかしたら今日ここに来ていただいている皆さんは、それぞれのお仕事や関わりの中で、地域や組織で関わっていらっしゃるところで、悩みを抱えている方にお会いになっていらっしゃる可能性もあると思います。そういうものをぜひここに持ち寄っていただいて、いろいろなことを教えていただきたいと思っています。皆さんで変えていきましょう。１人では無理なので、いろいろな人たちがこのように力を合わせてくれるような社会になっていくということです。そういうことを皆さんでつくっていきましょうということが大事かなと思います。

最後に、いろいろな施策がありますが、こういったことをやっていかなければいけないのかなと思っています。皆さんで具体的に何が地域の中で求められて、何がどうあれば地域共生社会をつくれるのかということを真剣に考えていければなと思っております。

では、皆さん地域共生社会の実現に向けて、区がどのように取り組んでいく必要があるのかということのアイデアをどんどん出し合って、実際こういうことが起きていますよと、アイデアだけでなくて結構です。このように感じているよ、思っているよとかそういうことでも結構ですので、皆さんでどんどん出し合っていただきながら話を進めてください。大事なことを言うのを忘れていました。誰かを責めたり、どこかを責めたりということではなくて、前向きに、何が本当に必要なのだろう、どういうことが起きていることに向き合っていかなければいけないのだろうということを考えていただきたいと思います。どうぞ資料とか見ながらで構いませんので、ご自身の意見を自由に書いてみてください。

（個人意見の書き出し）

○渡辺部会長

では、皆さん、その地域共生社会に向けて区の取組はいかにあるべきだとか、どういう課題があるかとか、特にファシリテーターはいませんので、書いていただいたご自身の意見を出し合って自由にお話をして模造紙にまとめてください。

（グループディスカッション）

○渡辺部会長

では、皆さん、一旦そこまでにしていただいて、次はシールをお持ちいただいて、自分のグループではないグループの意見をご覧いただいて、「あっ、そうだよね」とか、「このアイデア大事じゃん」と思うところに、シールを貼ってください。

（各班の意見を見て回り、同意したものにシールを貼る）

○渡辺部会長

皆さん、シール貼りましたら、お戻りいただければと思います。グループに戻られたら、どんなの書いてあったねとか、どれに貼ってあるねなんて話を、少し進めていただければと思います。おしゃべりをどうぞ。

（グループディスカッション）

○渡辺部会長

では、皆さんありがとうございます。いろいろなデータや、区の取組の成果や評価を見ていただきながら、皆さんが生活実感の中でそこを踏まえて、どういうことが地域で起きているよとか、こういうことでこの数字が上がってこないのではないかとか、やっぱり忙しい、面倒くさいとかというところにどう向き合っていかないと関心は高まってこないのかなとか、やはり話したくない人もいるよねということへの気づきがあって、

では、どういう施策をしていくと、そういう人たちも気づいたら話したり、楽しいなとか、面倒くさくないなというのが出てくるかなとか。
　また、今までやってきたもの、でも、もしかしたら役割を終えたものもあるかもしれないねというお話をされていました。そういったまとめも一緒に考えさせていただきながら、どのようにしていけばいいのかな、もう一歩深いところも皆さんで話し合っていけたらいいのかなと思いますが、本当に、皆さんのご意見がたくさん出て、学びになったところがたくさんありました。本日のディスカッションは、ここまでといたします。このまとめは、事務局の方にもお願いしながらやっていきたいと思います。
　続いて、各委員の皆さんから情報提供等はありますでしょうか。

○池内課長
　今、健幸ポイント事業といって、歩いて歩数を稼いで、インセンティブでポイントがもらえてナカペイに換えられる取組を実施しています。昨年度１，０００人、今年度１，０００人で募集し、昨年度の応募は２．３倍、今年は４倍でした。応募対象は４０歳以上の区民の方です。こういう事業に興味がある、中野の方はやっぱり健康で、歩きやすいところでポイントを稼いでというところがうまいのかなと思っています。また違う事業でもこのようにつなげていって、地域の人や、届かない人のところに届くようなものになればいいなと考えていすので、またいろいろなアイデアを皆さんからいただければなと思います。

○渡辺部会長
　まさにこちらのグループで出ていた話で、歩くというのと、ポイントというのをインセンティブはどうするかとか、そういう楽しいことがあれば、面倒くさいとか、そういうのを超えていけるのかなという話が出ていました。グループで歩いたりすれば、またいろいろな対話が生まれてくる可能性もありますし、いろいろなもの、活用可能なもの、資源というのはやっぱり中野にあるのだなというのが本当によくわかるお話でした。
　ほかにはいかがですか。よろしいですか。
　では、事務局のほうから、事務連絡などをよろしくお願いいたします。

○細野福祉推進課長
　当日資料について、ご説明します。
　当日資料１は、今後の予定についてで、前回全体会、第一回地域福祉部会でご覧いただいたものですが、今回、９月以降の日程が確定したので、改めて配布いたします。第２回全体会は９月２９日、第７回の部会は１１月２０日開催予定ですので、どうぞよろしくお願いいたします。
　それから当日資料２も前回全体会の資料で「審議会運営上の申し合わせ事項」ですが、こちらは全体会の場で、オンラインにより参加することができるようにするべきというご意見いただいたことを踏まえて、下線の部分を追記したものです。
　当日資料３ですが、前回全体会終了後に開催された各部会において部会長、副部会長が選出されましたので、共有させていただくものです。
　資料の事務連絡は以上でございますが、本日の資料でご質問がありましたら、事務局までご連絡ください。回答させていただきます。
　ご説明と連絡は以上でございます。

○渡辺部会長
　ありがとうございます。

前回の第２回、今日の第３回と説明と、説明をしていただくというところと、それについて皆さんが広く意見交換をして、現状認識を共有することができたということが、今日一番の成し遂げたことかなと思います。まずは今日の活発なやり取りに感謝を申し上げたいと思っております。また次回、少し議題を絞っていくようなところもあるのかなと思いますけれども、今日みたいに、積極的で活発なご意見をたくさんいただきたいと思っておりますので、また引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、これをもって本日第２回の部会を終了させていただきたいと思います。本当にどうもありがとうございました。